

“いなか暮らし交流” UI ターン者と地域がひとつになり、活気あるまちづくりを！

大田市 久利まちづくりセンター

## 1 久利町の概要

- (1) 大田市久利町は中心部大田町と今年世界遺産登録 10 周年を迎える石見銀山を抱える大森町との中間に位置している。

人口は約 1400 人ではあるが、商業施設が中心部の大田町や国道 9 号線沿いに集中していて、町内には生鮮食品を扱う店はなく、商店は一軒（酒類販売）あるのみである。

町内には小学校 1、保育園 1 であり児童、園児は総勢約 110 名である。

主たる地域産業はなく、町民の多くが会社勤めをし、代々引き継がれている田畑で高齢者が野菜などを生産している。生産された野菜は地域で活動する「くりの里産直市場」などで販売されている。

- (2) 久利町では高齢化や人口減により、今まであった体協、社協など各団体を一つに集約し、「まちづくり推進協議会」を立ち上げ、文化祭や運動会、介護予防事業などに取り組んでいる。



くりの里産直市場

## 2 事業の趣旨

- (1) 新たな地域づくりの担い手となるよう UI ターン者や地域住民が積極的に地域活動に参加できる環境をつくる。交流会の企画、運営を通じて地域の若手リーダーの育成、自主活動組織



実行委員会の立ち上げ

- (2) UI ターン者が地域に定着し、新たな仲間を呼び込めるようサポートする。

## 3 具体的な取り組み内容

- (1) いなか暮らし交流会開催

ア UI ターン者だけを対象にするのではなく、地域住民、UI ターン者、若手、高齢者とバランスよく実行委員会を立ち上げた。

イ 定期的なミーティングを開催

ウ 地元ボランティア団体が保護活動をしている「ねずみ淵」を会場に設定し、準備も兼ねてボランティア活動（草刈り等）に参加。

エ 交流会当日

町内外から約 70 名の参加があり、自己紹介にはじまり、この町で暮らす感想や思い、要望などについて話し合った。会費制でバーベキューをしながら交流を深めた。

町内に住みながら知らなかった者同士が知り合うことができ、好評であった。



交流会の開催

## (2) 先進地の取り組みを学ぶ研修

Uターン者を受け入れるための仕組みは行政に任せて、この事業ではUターン後の取り組みや、どのようにして地域活動参加にとりこんでいったのか、また残念ながら地域になじめず定住できなかった例などを海士町、智頭町の例で学んだ。



先進地の取り組みを学ぶ

## 3 評価と成果

### (1) 地域の活動や人をお互いが知ることができた。

ア 実行委員会の立ち上げにより、今まで知らなかった人や、知っていても話をしたことがなかった人同士がお互いを知ることができた。

イ 交流会準備や、ボランティア参加で地域の活動を知ることや、人とのつながりができた。

ウ 交流会で日頃の暮らしや抱える問題点などを共有することができた。

### (2) 農作業支援員への登録

久利まちづくりセンターで取り組んでいる独居の女性や高齢者のみの世帯で耕作地の維持管理に困っている方への支援に、UターンやIターンで移住してきた人を農作業支援員として登録。

野菜作りをしながら収入を得るなど支援する側、される側もお互いにメリット(WinWinの関係)があり、今では地域に欠かせない存在となっている。

農業や野菜作りをしたいが、都会では経験のなかった移住者が、高齢者の支援をしながら野菜作りのノウハウを得ることができた。

また、自立した半農半Xに向けた道筋を付けることができた。



農作業支援員作業風景

### (3) 地域の中の一員である

先進地の視察研修での失敗例などを参考に、交流会事業以外でも声掛けや地域活動参加に積極的に呼び込むことで、地域の仲間であるという意識が高まった。

## 4 今後の課題と見通し

### (1) 継続的な取り組み

UターンIターンで来た人はゆっくりと「いなか暮らし」を楽しみたい人が多い。

すぐに結果を求めるのではなく、地域活動に参加するなかで顔を覚えてもらい、つながりをつくり少しずつでも地域の一員としての活動の場を探していきたい。

文責 久利まちづくりセンター  
職員 安田拓志